

取り扱う加工品の大型化で 新規取引先を増やす

事業内容 協力企業700社とつながる「ものづくり商社」

「ユーズテクノ」は昭和48年の創業。金属の切断から精密板金加工などを手がけるものづくり企業として、あらゆる金属素材から製品まで「自社の技術・知識・情報を駆使して顧客のあらゆる要望に応える会社」を目指してきた。また「勤勉と努力なくして繁栄なし」を合言葉に、さまざまな事業に取り組み、時代のニーズに応じた金属の加工販売から製缶、機械加工と順調に事業を拡大してきた。

さらに昭和63年には大阪府東大阪市から同枚方市に本社を移し、平成17年には温水ボイラー、ろ過機、タンクなどの製造販売にも着手した。同社はもともと金属板の商社的な業務をしていたことから、現在でも溶接や塗装、めっき処理など各金属加工に必要な約700社とつながりがある。上山孝俊社長はこのつながりを利用して自社を「ものづくり商社」と称し、自社で対応できない仕事にも取り組む。これらの取り組みのおかげもあって最近では、ため池の水質改善装置など環境分野にも進出している。

補助事業 新型タレットパンチプレスで 短納期、受注増を目指す

補助事業を活用して新型のタレットパンチプレス（タレパン）を導入する。タレパンとは金属板を切断する機械のことで、「ユーズテクノ」ではタレパンを使って大小さまざまな金属板を切断している。申請当時は太陽光発電を取り付ける架台（土台）の生産が増えており、架台を作るタレパン設備の増強が必要だった。工場内には1台のタレパンを所有するものの、28年前に導入した機械のため、老朽化が進み、製造やメンテナンスに時間がかかり、加工可能サイズも最大914mm×1,829mmと大型加工には対応できなかった。

また1台で対応できる生産量に限りがあり、現状は受注先からの生産に対応できず、協力会社に仕事を依頼することが多々あった。加えて、材料を協力会社に提供する手間もかかり、顧客が求める短納期への対応が難しかった。機械が導入されれば、現状より加工量が増え、短納期対応がこれまで以上に可能になり、大型の受注も期待できる。

株式会社 ユーズテクノ

代表取締役 上山 孝俊
〒573-0102 大阪府枚方市長尾家具町3-10-4
TEL. 072-850-2263
FAX. 072-850-2264
資本金/10,000千円
従業員/25名

短納期 企画力 小ロット OK オール工程 OK 量産 OK 試作 OK 連携力

企業のネットワークを生かして 顧客に納得のいくものづくり

代表取締役 上山 孝俊

素材から部品・製品まで一括受注生産を目指し、さまざまな企業約700社とネットワークを組み、各事業部門において受注活動を展開しています。今後も素材から製品までの製造エキスパートとして発展していきます。



<http://www.us-techno.co.jp/>



4mの金属板を加工できるタレットパンチプレス



4mの金属板を加工できるプレーキプレス



若手社員が溶接の様子

具体的成果 機械導入で製造時間の 削減と短納期に対応

平成27年1月に新型タレットパンチプレスを1台導入した結果、生産効率が向上し、短納期化が図れた。同じ製品を加工する際と新型と旧式のタレパンを比較すると、機械部品加工では製造時間が約40%短縮された。太陽光パネルの架台（土台）の生産では約20%費用を削減できた。そもそも費用がかかる原因は、加工品を自社から協力会社に運ぶ輸送費だった。機械を導入して加工する体制を整えた結果、同社から協力会社に金属板を輸送する必要がなくなり、顧客が求める短納期への対応も可能になった。

さらに新しいタレパンにより、これまでできなかった、開けた穴にねじ切り（タップ加工）ができるようになった。旧式の機械では穴開け後に専用の機械でタップ加工する必要があるが、新型は機械に金属板を取り付け、装置を設定するだけで自動的に加工できるため、従来の手間が省けた。また加工サイズも1,219mm×2,438mmの大型の金属板にも対応できるようになった。当然ながら、機械が2台に増えたことで生産数は約2倍以上に向上した。また、新型はサーボモーター搭載のため、大幅に消費電力を抑えられ、旧型のタレパンより維持管理費が半減した。

今後の戦略 多品種のものづくり、 小さいモノから大きなモノへ

上山社長が今後力を入れたいと考えているのは大型製品の加工だ。現在、同社と取引を始める企業が増えており、タレパンを導入した1年半で4社が新規取引先になった。現在取引先は100社以上になる。取引先が増えた理由を「大型製品の加工を手がける会社が、事業継承の問題で後継者が確保できずに廃業。依頼する会社が大型の金属加工ができる企業を探中で、『うちを見つけたのでは』」と上山社長は話す。今後も同様のケースで取引先が増えると予想するが、その際に重要とされるのが、設備の導入と多能工の育成だ。

そこで、設備面では大型製品の加工ができる新しいレーザー機器の導入も検討している。ただ、生産量を増やすだけでなく、製品の品質の安定化も重要だ。それには人材教育に力を入れる必要がある。今後は板金する人は板金、溶接する人は溶接と1分野だけの社員ではなく、誰もがどんな分野でも対応できる多能工を育てる。これにより製缶など、ある特定分野に仕事が集中した際に、他分野の社員による支援体制を整え、顧客の要望に迅速に対応できるようにする。これらにより設備と人材の充実を図り、毎年前年度比7〜8%の売り上げ増を目指す計画だ。

取材を終えて

社是が現場に 根付いている会社

取材後、工場の中を見学した。工場に入ると作業中にもかかわらず、社員が気持ちの良いあいさつを返してくれた。また若手社員の姿が多く見られ、活を感じた。ある若手は大型のボイラー製品に向かって集中しながら溶接していた。また、工場内は加工する板などが整然と並んでいる。これらのことから社員教育が行き届いている印象を受けた。「勤勉と努力なくして繁栄なし」の社是が生きていた。訪問して、すがすがしい気持ちになった。